

2008年の中国の機械輸出額世界一となる

2009年6月18日

日本機械輸出組合

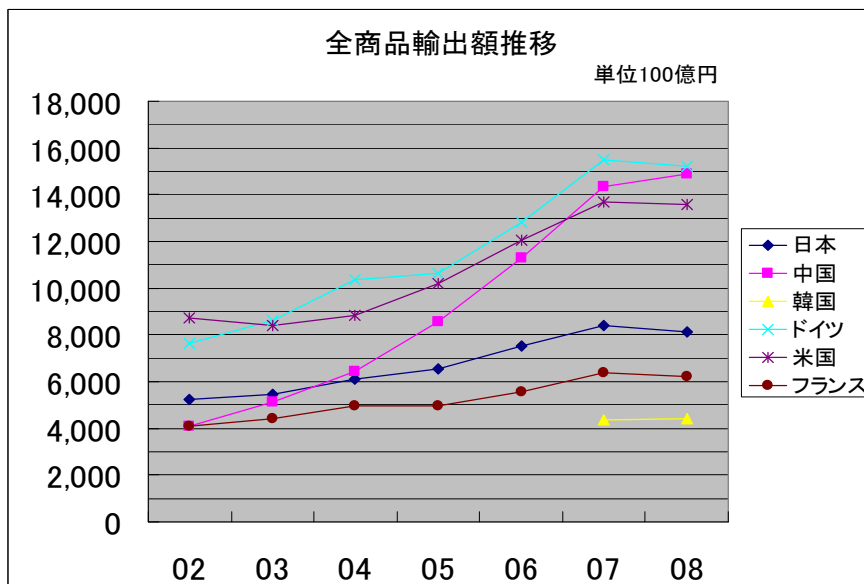
日本機械輸出組合(理事長 宮原賢次住友商事(株)相談役)では、各国の通関統計から世界貿易統計データベースを作成し、毎年、世界の全商品・機械貿易構造を分析している。

2008年の全商品輸出額では、中国が世界のドイツに肉薄し、**機械輸出額では初めて世界一となった**。中国は、この5年間に機械輸出が2.5倍と急増し、パソコン、TV、携帯電話などでは世界の供給基地となっており、さらに主要国との差を広げようとしている。

1. 全商品輸出額でも中国が世界一に肉薄

2008年の全商品輸出額はドイツ152兆円(前年比1.8%減)、中国149兆円(3.7%増)、米国136兆円(1.1%減)、日本81兆円(3.4%減)、フランス62兆円(2.4%減)、韓国44兆円(0.6%増)の順であった。輸出主要国が前年比マイナスとなる中で、中国は3.7%増となり、2009年には世界1位となる勢いである。

この5年間に中国を除く主要国が20%から50%の増加であったのに対し、中国は2.3倍と輸出が急増した。



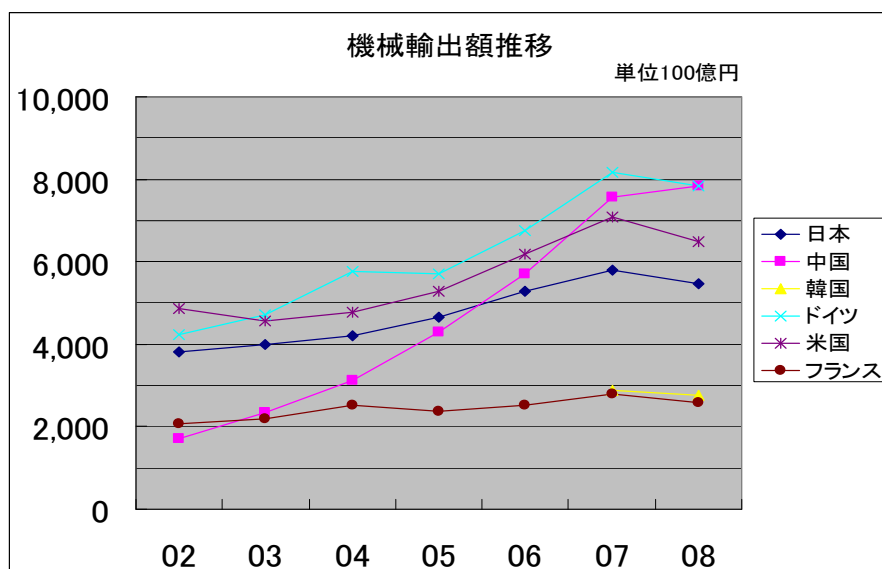
2. 機械輸出額では中国が世界一となる

機械輸出額は中国 78 兆円(3.5%増)、ドイツ 78 兆円(4.1%減)、米国 65 兆円(8.3%減)、日本 55 兆円(5.7%減)の順で中国が約100億円ながらドイツを追い越し、世界一の機械輸出国となった。機械輸出においても主要各国が前年比マイナスとなる中で、中国が唯一プラス成長となり、2009年には他の主要国との差を拡大するものと思われる。

なお、日本、ドイツ、米国の機械輸出額が落ち込んだのは自動車輸出の不振が大きな要因となっている。

この5年間に中国を除く主要国の機械輸出額の増加は横ばいから40%増であったが、中国は2.5倍と急激に伸びている。

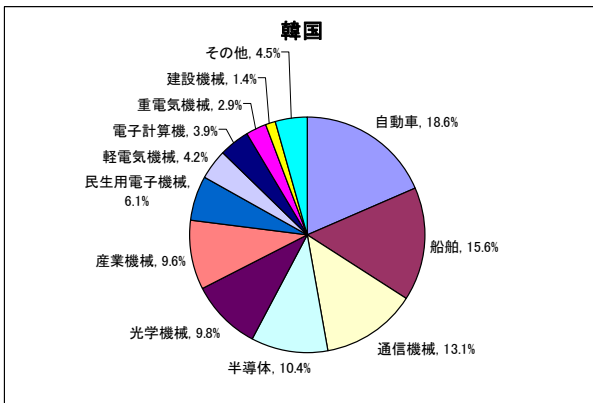
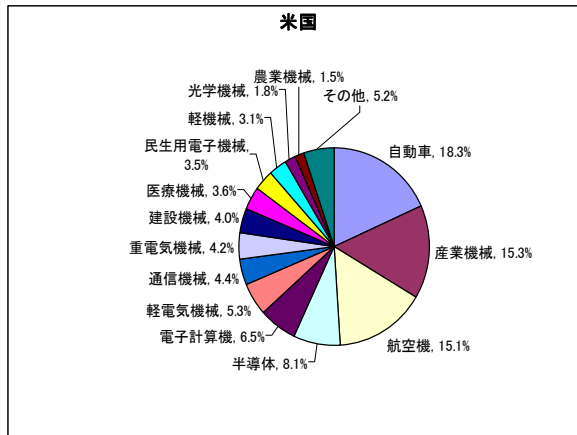
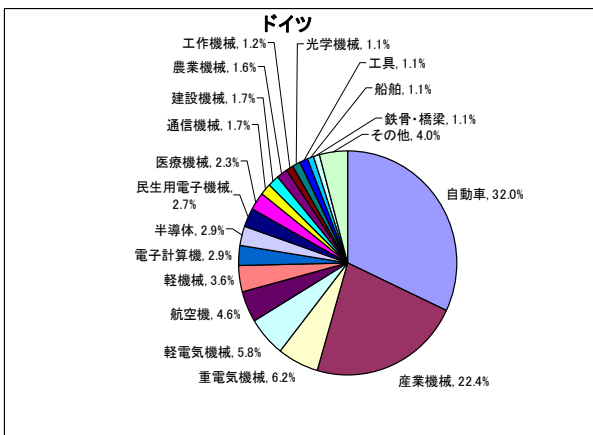
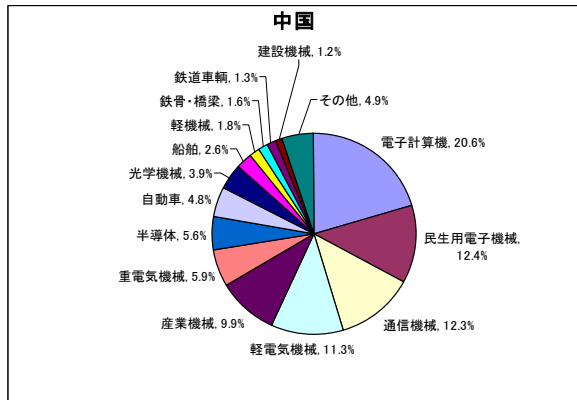
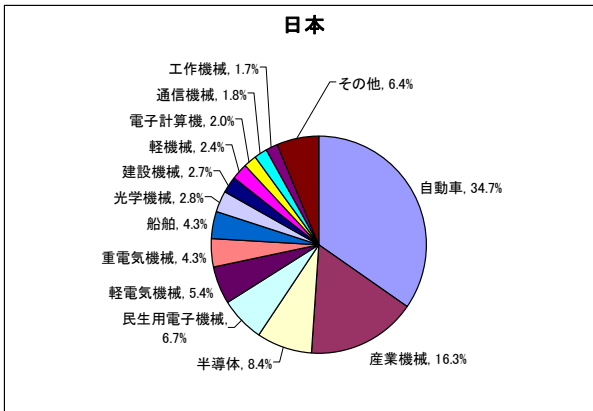
なお、全商品輸出額に占める機械輸出額の割合は、日本67.3%、韓国63.1%、中国52.7%、ドイツ51.5%、米国47.9%、フランス41.4%と、日本の割合が最も高い。



3. 中国はパソコン、TV、携帯電話、エアコン、電子レンジの世界の供給基地

中国の主力機種はパソコン等電子計算機(機械輸出額の30%)、TV・VTR等民生用電子機械、携帯電話等通信機械、エアコン・電子レンジ・掃除機・照明器具・蓄電池等軽電気機械で、これらは強い競争力を持ち、世界の供給基地になっている。

ドイツは、自動車(同33%)、産業機械、重電気機械、軽電気機械の順、米国は自動車、産業機械、航空機、半導体の順、日本は自動車(同35%)、産業機械、半導体、民生用電子機械の順、韓国は自動車、船舶、携帯電話等通信機械、半導体の順となっている。



4. 各国とも近隣地域向け輸出の割合が高い

主要国の機械輸出地域は、**中国**が EU(機械輸出額の20%)、米国、ASEAN、日本、韓国向けの順、**ドイツ**は EU(同57%)、米国(同9.1%)、CIS(ロシア・東欧)、中国の順、**米国**は EU、カナダ(ともに同21%)、中米、南米、ASEAN の順、**日本**は米国(同21%)、EU(同16%)、中国(同13%)、ASEAN、韓国・台湾の順、**韓国**は中国(同19%)、EU(同17%)、米国(同13%)、ASEANの順となっている。

主要国の輸出地域は中国を除き、近隣地域向けが多く、ドイツは EU 向けが全輸出の 57%、米国は米州向けが 41%、日本はアジア向けが 39%、韓国は 37%となっている。

